

・今回はメンバーからの提案で、合宿に向けて3人の現在地の確認をするためにフィードバックを実施しました。

全メンバーに共通していたのは、フィードバックする側のまどろっこしさと、その影響もあって問題に気付かないフィードバックされる側という現状でした。

あるメンバーへのセッションでは、やりたくない仕事に対する取り組みがテーマだったのですが、現状の環境の中でやりたくない仕事をやらないということをどうやって選べるのか、メンバー自身の将来なりたい姿など、具体化が難しく、暗礁に乗り上げたような感覚がありました。

一方で、陽子さんからはメンバーがやりたい仕事が出来ない現実を非常に端的に一言で伝えていました。

本当は私は営業職ではないからこそ言えることを伝えなければいけない場だったんだということも後から振り返って思いました。

もう一人のメンバーのセッションでは旦那さんとの関係性がテーマでしたが、現状大きなトラブルがあるかということそうではないことから、えみさんと私からの理想に向かうための質問が上手く伝わっていない感覚がありました。

陽子さんからは「旦那さんは少年」という表現がありました。が、まさにそんな関係性で今じっくりいっているのだと思います。

陽子さんの「とにかく会話を続ける」ことが人間関係を続けていくことの基本だという話は、会社で孤立していったメンバーたちを思い浮かべてじっくりきました。

私へのフィードバックでは二人のメンバーからいくつも質問を頂いて、私がやりたいことをやるために時間を作るための根本的な解決(子供への時間を減らす)について問いかけがありました。私が質問の意図を汲み取ってなかったこともあって、二人を困らせた状況になりました。

陽子さんからは「過保護」というワードで端的な伝え方がありましたが、陽子さんは、私自体がやりたいことを実現するために、子供がよりよく育つように、また私と子供の関係がよくなるようにと思って言ってくれていることが分かっているので、鋭い単語だったとしても、その単語単発の意味ではなく、そこで伝えたい真意を考えられるのだと思いました。

二人のメンバーも思う気持ちは同じだと思います。

だからこそ、私が言葉の意図を汲み取る能力を上げていくことも必要なんだと思いました。

陽子さんからフィードバックで取り上げた項目はよかったとコメントを頂き、少し救われた気持ちになりましたが、会が終わった後にはどうして伝えられないのだろうと呆然としていた部分もありました。

日々の習慣がいざという時の行動につながらないというのは、最近の出来事で顕著に見たと思いました。

小さなことに気付くまではクラスAのジャーナルの取り組みで出来るようになってきたと思いますが、そこが改善につながっていない詰め甘さ(それが陽子さんには上手になりたいと思っていないように見えるのだと思います)があるのだと思います。

これがよくなるまでには正直長い道のりがあり、かなりのトレーニングが必要になるのだと思いますが、やっぱり諦めずに続けたいと思いました。

(A.S 40代女性 大阪府)